

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されるような公表の方法については、配慮しています。

高蔵 小学校 「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語 A	全体的な傾向や特徴など	・言語に関して、漢字や基礎的な語句の意味の理解に課題があった。
	よくできた問題	・漢字を読む問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	・漢字を正しく書く問題や文章表現の工夫などを読み取る問題に課題があった。

国語 B	全体的な傾向や特徴など	・自分の考えや読み取ったことをまとめて、「書く」ことにおいて、課題があった。
	よくできた問題	・声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける問題において、自分で考えて書くことに課題があった。

算数 A	全体的な傾向や特徴など	・図形における角度を求める問題やもともになる図形の性質を使って考える問題など、応用力に課題があった。 ・小数の加法や減法の問題で位取りに課題があった。
	よくできた問題	・分数の減法や除法の問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	・直角をもとにして角度を求める問題や円と二等辺三角形の性質を利用して、角度を求める問題など図形の問題に課題があった。

算数 B	全体的な傾向や特徴など	・数量関係の割合を利用した問題や具体的な場面で算数を活用する問題に課題があった。
	よくできた問題	・正三角形の性質や合同な三角形の性質をもとに、理由を記述する問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	・単位量当たりの大きさをを用いた問題や割合や割り引きを考える問題に課題があった。

理科	全体的な傾向や特徴など	・主として「活用」に関する問題において、課題があった。
	よくできた問題	・器具の名称を示す問題や気温などの変化を表す問題の正答率は高かった。
	努力が必要な問題	・振り子における実験の条件を構想したり、自分の考えをまとめたりする問題など実験に関する問題に課題があった。

③ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

- ・授業において、発表する機会が与えられていると感じたり、課題を話し合い、発表する活動に取り組んだりしている児童は全国平均を上回っており、全校で発表の仕方などについてスタンダードを作成した成果が出ている。
- ・感想文や説明文、自分の考えを文章に書くことや友達に自分の考えを説明することに対して、難しいと感じている児童は多くいた。これからは考えを書く活動や友達に伝える活動を全校で取り組んでいく。
- ・文章の意図に合った表現や文章の内容を要旨にまとめるなど書く活動に対して、抵抗感や苦手意識をもっている。国語の授業を中心に要旨にや気付いたことなどをまとめて、書く活動を取り入れる

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・1時間以上学習している児童の割合が改善傾向にあり、30分以下の児童は大幅に減少している。本校においては、目安となる学習時間を学年×10分+10分と定めているため、家庭学習の仕方について、PTA理事会などを通じて、啓発を行った。また、生活アンケートなどの結果を配布して、家庭学習の啓発を呼びかけた。
- ・土・日曜日の学習時間は全くしない児童はいなかったが、2時間以上している児童は30%未満だったので、休みの日の家庭学習の仕方や宿題の量などを検討する必要がある。
- ・1日30分の読書時間については全国平均を上回ることができた。週1回の読書タイムにおける読み聞かせや教師の言葉かけが有効であった成果であると考えられる。

② 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・1時間以上のテレビ等の接触時間は依然、全国平均を上回った。しかし、4時間以上接触している児童の割合は昨年度よりも減少した。
- ・テレビゲーム等の時間の1時間以上の平均は全国平均より下回ったが、30分以上は全国平均を上回った。これからも、学校アンケートの結果などで保護者に啓発していきたい。
- ・携帯電話やスマートフォンについては持っていない児童全国平均を下回ったが、4時間以上使用している児童の割合は上回った。規範意識教室やPTAを通じて、保護者への啓発をしていきたい。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・毎週火曜日の計算タイムや毎週木曜日の読書タイム(読み聞かせ)、毎週金曜日の音読タイム、「さんさんタイム」(毎週水曜日昼休み後の15分間)で全校一斉に実施。
 - ・さんさんタイムの内容について、学力向上推進委員会 主題推進委員会(特設時間部)で方向性を確認。
- 基礎問題、過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・各学年の実態を踏まえ、基礎的な問題やアシストシートなどを計算タイムに行い、基礎基本の徹底を図る。
 - ・活用力を高めるワークや過去問題を日々の宿題や夏休み・冬休み・春休みの宿題として計画的に位置付ける。また、答え合わせの際に、必ず解説を行う。
- ◎「既習事項」の活用
 - ・算数科の授業において、毎時間導入時に本時の学習に関わる復習タイムを設定し、フラッシュ教材等を活用して既習事項の確認を行う。
- 日々の授業における「説明」の習慣化
 - ・自分の考えを書く。一人ずつがやく。ペアで説明するなど活動を習慣化するために、ノート指導を通して、を各教科で取り入れるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題のスタンダード化(時間・学年別・教科別内容)
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進し、自学ノートを作成し、自宅で復習などに取り組みさせる。
 - ・学校通信などで学習時間、学習内容、学習方法について児童及び保護者への啓発を行う。
 - ・年3回の「3つの花満開大作戦」の結果について分析し、家庭学習についての実態を明らかにするとともに、それに応じた方策を保護者向けの手紙で周知する。
- ひまわり学習塾との連携
 - ・週2回のひまわり学習塾参加児童に対して、担任と学習指導員が連携し、一人一人の学習習慣の定着度について共通理解する機会を設ける。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り、学年便り、3つの花満開大作戦の結果お知らせ等で、結果の概要と今後の対策について周知する。